3年夏の神奈川大会は、初戦で先制ホームランとサヨナラ打を放ち、その後も中軸として存在感を放った ＝1982年7月

伝統校&公立編 80/100

一歩一歩と

武相 パンチ佐藤

「お調子者」実像と原点

高校時代から、佐藤和弘(53)はやはり「パンチ佐藤」だった。

3年春の関東大会に臨んだ武相は、初戦で荒木大輔がいる早実(東京)と当たった。1982年5月、4季連続で甲子園に出ていた大スターは、先発を回避していた。

四回。佐藤は意地のアーチを架ける。「試合前から荒木を追うカメラのシャッター音ばかりで。いっちょ、やってやろうと思っていました」

これ見よがしにベースを回るが、「塁を蹴ったところで、すっこけてしまう。『荒木が出てこねえからだ』ざまあみろって、気合が入りすぎました」。7―0の七回コールド勝ち。当時の本紙には「僕はすぐ調子に乗っちゃうんですよ」とらしいコメントが残る。その光景、表情がすぐに浮かんでしまうのが、パンチ佐藤という選手のすごいところだ。

川崎市の西中原中出身。本当は東海大相模に行きたかった。「原(辰徳)さんたちが、神奈川を4連覇したのをテレビでものごころに見ていましたから」。先生に相談すると言われた。「佐藤、世の中には偏差値というものがあるんだ」。そして、武相に進んだ。

当時の神奈川は横浜や横浜商(今校名)、桐蔭学園が覇権を争っていた。「武相はダークホースって感じでね」。下克上に躍起になった。佐藤は1年秋からメンバー入りし、春の県大会は2連勝を飾った。

「投手は2点以内に抑える力があったし、僕は3番でしたが、1番と4番も超高校級だった。実際に春は勝っているし、県でもナンバーワンの力があったと今でも思う」

しかし肝心の夏は2年、3年ともに準々決勝で敗退。それぞれ日大と法政二に延長で競り負けた。「高校野球は、練習したものが最後にちゃんと出る。言い方は難しいですが、うちはやんちゃな選手が多くて、野球の神様に怒られるようなことばかりをしていた」。野球以外の部分でさまざまな問題を抱え、チームとして完全燃焼できなかったことを悔やむ。

亜大を経て入社した熊谷組で2年連続の社会人野球ベストナインに選ばれた。89年にドラフト1位でオリックスに入団。1年目から3割を打ちながらその後伸び悩んで94年に引退したが、「記録より記憶に残る選手」として下火だったパ・リーグを盛り上げた。

ただ、そのキャラクターと実像は少し違う。

「武相は努力しない選手が多い中で、俺はやりましたよ。うちが貧乏でね。同級生は帰りに駅そばを食べるんだけど、俺は食えない。悔しくてね。当時の目標はプロじゃなくて、川崎市の水道局に入りたかった。安定しているから。とにかく、『貧乏脱出』が僕の目標だったんです」

後の開花も当時の我慢があればこそだと語り、現役の高校生にこうメッセージを送る。

「人間、一生アクセルを踏み続けるなんてできない。ただここは踏んでおけという時がある。それが、今なんだと思う」

サイン色紙に「貼っておこうか?」と添えてくれた自作のシール=写真=には、こうある。元気配達人!。今もやはり、パンチ佐藤なのだった。

(敬称略)

3年夏の神奈川大会準々決勝で、法政二に延長で敗れて悔しそうな佐藤さん(右から4人目)＝1982年7月20日、横浜スタジアム

さとう・かずひろ 西中原中―武相―亜大―熊谷組―オリックス。東都大学リーグでベストナインを3度受賞。熊谷組では都市対抗大会で史上2人目のサイクル安打を達成し、1989年のドラフト1位でオリックス入団。トレードマークのパンチパーマから、登録名を「パンチ佐藤」とした。94年の引退後はタレントとしてバラエティー番組などで活躍。川崎市中原区出身。53歳。

高校時代について母校で熱く語るパンチ佐藤。横断幕には「練習なくして勝利なし」の文字が躍る＝武相高

(文・佐藤将人、塩野圭太)

高校球児を応援します!
かながわCATV情熱プロジェクト
AIC ITSCOM CCN ACTV YCV J:COM
「かながわCATV情熱プロジェクト」は、神奈川県ケーブルテレビ各社の共同プロジェクトです。
▼詳しくはWEBサイト
www.kjproject.com
情熱PJ 検索

長内孝

ど?

横浜大洋時代にプロ通算1000試合出場を果たし、花束を受け取る長内＝1992年9月2日、横浜スタジアム

オーナーとし
内さん
の「カープ熱